今年の漢字

志津小学校長　辻　太久郎

明けましておめでとうございます。昨年は保護者の皆様、地域の皆様には大変お世話になりました。昨年は新型コロナウイルス感染だけでなく、いくつかの事件事故が発生し、そのたびに本校の危機管理体制を見直し、強化してまいりましたが、同時に多くの皆様のご協力や励ましのお言葉を頂き、本校が皆様に支えられている学校、皆様と共にある学校であることをあらためて実感した次第です。心より感謝申し上げます。

今年も本校教職員一丸となり、子どもたちの安全・安心の確保、そして成長と笑顔作りに尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、毎年末になると、その年の世相を表す「今年の漢字」が話題になります。昨年は「金」でした。東京オリンピックでの金メダルラッシュが主な理由でした。この「今年の漢字」は、1995 年から始まり、昨年の「金」は、２７個目の漢字となります。過去の「今年の漢字」を見てみると、比較的暗いイメージの漢字が少なくないことに気付きます。大きな事件、事故、災害ほど人々の心に焼き付くことを考えれば、それも当然と言えるでしょう。また、その年の世相を表すわけですから、良い出来事も悪い出来事も客観視すれば、そのような結果にもなります。そんな歴代の「今年の漢字」が並ぶ中、私の目を引いたものは、2011 年の「絆」と 2013 年の「輪」でした。2011 年は東日本大震災が発生した年です。誰もが家族や仲間の大切さを再度確認した年でした。2013 年は 20 年東京五輪決定の年です。日本や世界各地で相次ぐ自然災害に支援の輪が広がった年でもありました。「絆」と「輪」は、人々の心の有り方や結びつきに注目が集まった珍しい例だと思いました。実際、自然災害に翻弄される人間の無力さと、そんな困難をも乗り越える人間の（心の）偉大さを体験した年だったのだと思います。そして現在、世界中がコロナに翻弄されています。それにも関わらず世界に目を向けると、国同士のエゴがむき出しになったり、国内が分断されたりと「輪」や「絆」とは程遠い状況です。（以前、タイムラインでもご紹介しましたが）毎朝、職員室前の児童出欠黒板に、各クラスの児童が出欠人数を記入しに来てくれます。一年生は、責任感が強すぎるため、時に「私が書く！」「いや、ぼくが！」ともめることがあります。ところがその日は何のトラブルもなく、静かにその責務を果たしていました。よく見ると児童二人が、数字を仲良く半分ずつ書いていたのです（つまり、数字の「０」の左側半楕円をひとりの子が、右側半楕円をもう一人の子が書く。「１」も上下半分ずつ、という具合に）。奪い合うのではなく、攻撃し合うのでもなく、物も心も分かち合う。今世界に足りなくて、世界が必要としていることが何かを教えてくれました。

志津小学校の「漢字」は、今までもこれからも校章の中央にある「志」ですが、一年後、2022 年を振り返った時、「今年の漢字」が「志」に加え、「分かち合う」の「分」や「合」、「共有する」の「共」等であるよう心から願いますし、そうなるよう努めていく思いを強くした次第です。年明けに、近くの神社に初詣に行った際、自分自身のものとは別に、志津小についての神仏からのアドバイスを頂こうと、おみくじを引きました。そこにはこう書かれていました。「例えば　舟に乗って順風を待つ人のようで　月の光も曇り　山高くして車も行きにくい相と言える　しかし他と和合し　心の誠を尽くすならば　やがて順風来たり　月も輝きを増してくる」。人間の力ではどうすることもできないことはある。そんな時だからこそ、他を思いやり、他と協力して心を磨くことが、未来への大きな一歩になるということなのだと思います。